



いずみさの昔と今 第252回

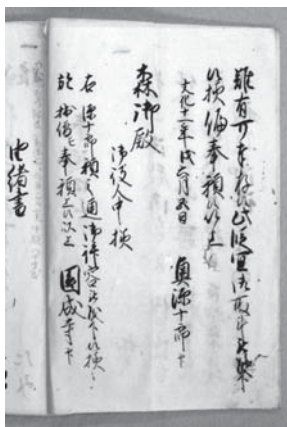
重要文化財奥家住宅の古文書

現在の府道と歌山貝塚線（かつての熊野街道または紀州街道）を通過して南中樫井の集落に入ると、道ぞいに本瓦葺きの長屋門、長い土塀、白壁の美しい塀のある広大な民家住宅があります。ここは重要文化財に指定されている奥家住宅です。奥家住宅は、江戸時代の初期（400年前）に建てられ、長屋門と土塀に他の、広い土間のある大きな主屋や、来客をもてなすためにも使われた座敷と庭園があります。



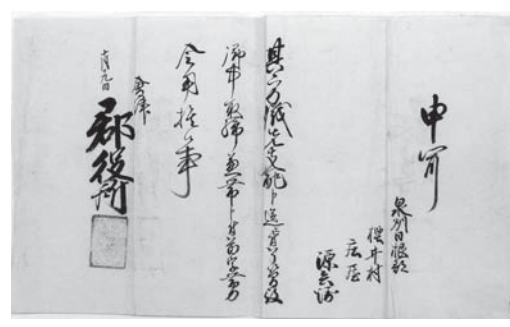
▶奥家住宅

近年この奥家住宅から江戸時代を中心とした古文書が多数発見され、現在その調査が進められています。奥家住宅の主である奥家は代々、源兵衛・源十郎を名乗り、江戸時代中期（1710年ごろ）から明治初期にかけて樫井村の庄屋を勤めました。奥家は領主（江戸幕府の代官）から、公式の場での帯刀（刀の携帯）、苗字の使用、袴・袴・絹布の着用、上訴（代官に訴え出る権利）を認められていました。こうしたことは一般の村の人々にはめつたに認められないものでした。



▶奥家が聖護院に提出した願い書

また奥家は京都の天台宗寺院・聖護院に「家頼（けらい）」「御内（みうち）」（ともに家来のこと）として仕えていました。奥家の子息は庄屋を勤める前に京都の聖護院に奉公しました。聖護院は全国の修験道（山伏）の総本山で、聖護院の宮門跡（聖護院の主）や関係する僧侶たちが多数、定期的に和泉葛城山脈の修験の行場に出向いて、修行を行いました。奥家は聖護院の宮門跡の一行の世話をを行い、奥家住宅にも聖護院の宮門跡の一行が立ち寄りました。奥家住宅の座敷で宮門跡の一行をもてなしたのでしょう。奥家の古文書には聖護院の僧侶と奥家の間の交流の手紙が多く残されています。また「聖護院御内」である奥家がおそらく聖護院のために運んだ荷物の札も残されています。



▶奥家が苗字・帯刀を認められた文書

考古学入門講座 第3回「古墳時代概説」

日時 12月17日(土) 午後1時30分～3時 (受付：1時～)
定員 60人 (先着順) 講師 西村 歩 (副館長)
申込 直接または電話で ※受講無料

特別展示

泉佐野の文化遺産～文化遺産を未来へつなぐ～

今回の展覧会では、平成26年度から行ってきた寺社建造物の調査で撮影した写真や作成した図面、調査のために活用した大工組関連資料、旧日根野村・旧大土村の文化遺産、旧樫井村の文化遺産など、今までの展覧会では、あまり紹介していなかった資料を展示します。

エントランスホールでは、世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群について、世界遺産についてのパネル展示を行います。

開催日 12月1日(木)～来年1月15日(日)
※入館無料



▲佐野大工仲間定法申合之事 (館蔵)

レイクアルスタープラザ・カワサキ
歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合はその翌日、日曜日の場合はその翌々日）
開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

◆歴史館いずみさのFacebookで情報発信中！

特別展、講演会の他にも、考古学講座やワークショップなどのイベント情報を発信しています。ぜひご覧ください！
(<http://www.facebook.com/rekishikan.izumisano/>)